

## 第5期 事業計画書

期間：令和5年11月1日～令和6年10月31日

### (基本方針)

1. 地域のために活動し、地域の資源を搾取しない
2. 方針・活動内容が異なったとしても、他地域・他団体などに敬意を
3. 志は大切だが、家族・友人なによりも自分自身の活動を大切に

### (5期事業方針)

1. 「倉敷とことこ」の地位向上
2. 「とことこシリーズの終わり」を見据えた事業継続の検討
3. 財務体質の強化

### 1 概要

第4期は2期連続の黒字を達成したが、これは役員報酬を低く抑え、受託事業の利益をメディア運営にまわした結果である。つまり、役員が無理をした結果であるため、これをいつまでも継続することはできない。今期は売上が前期より減る見込みだが、これ以上役員の負担増は難しく、役員報酬を少しでも増やし、理事も増員する形で体制強化を図っている。この結果、今期は「約150万円の赤字」見込みとなる。

赤字の原因はハッキリしており、メディア事業が赤字体質であるため。つまり、メディア事業（とことこシリーズ）ははれとこの基幹事業ではあるが、経営的な観点からは「お荷物」であり、このままでは継続できないことも明白である。このため、今期は続ける努力をしながら、「とことこシリーズの終わり」も意識した運営を行うこととする。

セミナー事業（高梁川流域ライター塾、市民レポーター教室）については、ブラッシュアップしつつ基本は前期と同じ方針で運営する。

また、今期は倉敷市移住定住推進室より地域おこし協力隊が2名着任することが決定している。当面は、倉敷とことこでライター活動を行ってもらうため、記事数は増えることが予想される。協力隊の活動をサポートしつつ、フラグシップメディア「倉敷とことこ」の強化を今期の最重要ミッションとする。

## 2 新規事業

倉敷市地域おこし協力隊受入事業（担当理事：戸井・森田・池上、ほか業務執行理事）

倉敷市移住定住推進室が募集した地域おこし協力隊が、2023年12月1日より着任し、はれとこはその受入団体となる。

※期間は「2023年12月1日～2026年11月30日」

- 高石真梨子
- 岩佐りつ子

2名は最初の1年程度、倉敷とことこでライター活動を行いながら、倉敷の理解・人脈などを深め、自分のやりたいことの実現に向けた活動を増やして行く予定となっている。このため、今期としては「倉敷とことこ専業ライター」の位置付けとなることもあり、記事数はかなり増える予想される。

ただし、協力隊は「はれとこのスタッフ」ではなく、お互いの活動をサポートするという対等な立ち位置という大前提であるため、お互いにメリットのある取り組みとすることを目指していく。

## 3 既存事業

メディア運営事業（とことこシリーズ）（担当理事：岡本・西山、ほか業務執行理事）

倉敷とことこ・備後とことこの既存メディアは、前期と同じく高梁川流域ライター塾修了生の活動する場として活用しながら運営を継続する。今期は、福山担当として佐藤理事が加入したため、体制面で弱くなっていた備後とことこにおいてもライター受入の下地はできている。

メディア別の運営方針は以下のとおり。

### <倉敷とことこ>

地域おこし協力隊の力を活用し、記事数を増やしながらか地域メディアとしての地位向上を目指す  
※ページビューなども現方針でできる限り伸ばす施策を打つ

### <備後とことこ>

伸ばすよりも「維持」を目標とする。

佐藤理事を中心に、福山エリアでの取材記事字数を増やし地域との関係強化を図る。

また、「メディア事業が赤字体質である」という事実を踏まえて、「とことこシリーズの終わり」も同時に検討を開始する。最低年間300万円程度かかるメディアの運営費用を、前期倉敷とことこ5周年を機に作った「とことこサポーター」だけでまかなうのは極めて難しい。「では、どうするのか？」を「やめる」という選択肢も含めて、組織として検討する時期に入っているため、今期はその検討期間とする。

### 高梁川流域ライター塾（担当理事：戸井）

前期からの継続事業である「高梁川流域ライター塾 2023」を推進する。

2024 年度については「倉敷開催」とし、高梁川流域ライター塾としての開催は最終回とする。資金面は、前年度に引き続き「福武教育文化振興財団 2024 年度教育文化助成」に申請を予定している。

並行して、初心者向けのライター塾だけでなく、既存受講者・所属ライター向けのスキルアップ講座を企画し、ライター塾と同じく動画コンテンツとして販売することで収益面の改善を図る。継続的に販売することから、はれとこ理事以外に講師をお願いすることは難しいため、例えば以下のようなコンテンツを制作予定。

- 後藤理事による、準備からレタッチまでを「ロジカル」に計画する撮影講座
- 佐藤理事による、もう一歩上の Web ライティング講座
- 小溝理事による、人におもいを伝えるインタビュー記事講座

### 市民レポーター教室（担当理事：戸井・森田）

前期からの継続事業である、令和 5 年度倉敷市市民企画提案事業「倉敷市民レポーター教室」を推進する。

2024 年度も観光課との協働事業として「令和 6 年度市民企画提案事業」に申請予定としている。ただし、本事業での申請は採択可否に関わらず、今回限りとする。

2024 年度市民レポーター教室については、以下の方針で内容を修正し、2024 年度で事業としては完成させることを目指す（事業そのものは 2025 年度以降も継続するが、動画の再収録などは行わない）。

- イベントの開催レポートだけでなく、「告知記事」もレポーターの記事作成対象とする
- 市民ライターの取材に希望者は同行できる仕組みを作る
- 講座のアクセシビリティ対応（動画に字幕をつける、資料の音声コード配布など）  
※協力隊の高石さんにサポートいただく

### 高梁川流域ライター育成事業（担当理事：西山・後藤）

「高梁川流域ライター塾」で育成した、市民ライターの登録および周知の仕組みとして、今期も引き続き運営するが、高梁川流域ライター塾が 2024 年度で終了となるため、その後はタイトルなどの変更が必要になる。

#### 受託事業（担当理事：業務執行理事）

発生ベースではあるが、小口の HP 制作、ライティング案件、配信の相談が増えている。前期までは、利益率が低い場合も所属ライターの実験に繋がる・資金力に乏しい市民活動系団体の支援に繋がるならという条件で受託していたが、今期はメディア事業を優先するためお断りする方向とする。

- メディア事業は公益事業として、利益は追求せず、補助金・助成金を活用し「維持・継続」することを目的とする
- 受託事業は役員・パートナーが納得感を持って仕事をし、適正な報酬を得られることを目的とする

上記のように仕事の受け方も今期は変えていく。

#### 児童養護施設への PC・スマホ貸与（担当理事：戸井）

児童養護施設への PC・スマホ貸与は、発生ベースで随時対応する。

## 4 その他

以下の検討を行う。

- サポーター募集など「営業活動」が得意なメンバーの発掘
- 「ベーシックガバナンスチェック」の認定を受けるなど、公益的な立ち位置の認知向上

## 5 役員等

5期は以下の体制で運営する。

代表理事	戸井 健吾
副代表理事	岡本 康史 西山 博行
業務執行理事	村上 智英 森田 美紀 後藤 寛人 佐藤 千幸 小溝 朱里
理事	杉原 佑友太 池上 慶行
監事	坂ノ上 博史 中原 牧人

以上。